

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

【学校像】伝統ある普通科高校として、以下の学校をめざす。

- ・希望に応じた進路実現をサポートする学校
- ・次代を担う志高くたくましい人材を育てる学校
- ・地域に信頼され誇りとされる学校

【育てる力】授業・学校行事・部活動・地域連携等を通じて、以下の力を育む。

- ・確かな学力とキャリア意識
- ・主体的に考え行動する力
- ・知徳体備わった豊かな人間性

## 2 中期的目標

## 1 学力向上と進路実現

- (1) 新学習指導要領と本校の実情や将来像をふまえ、基礎的・基本的な学力（「確かな学力」）の定着と発展的な内容への取り組みをめざす。
- ア 進路目標に応じたコース（文理系・文系・総合）の指導を強化し、進路指導等のホームルーム活動やガイダンス活動を充実させる。
- イ 学習ニーズの多様化をふまえた選択科目の充実をはかり、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望に応じて学習できる教育活動の展開に努める。
- ウ 「学習基礎」（朝のモジュール型学習：通称朝学）で、モジュメディアステーション（一斉配信機能付き電子黒板）を活用して「確かな学力」を身につけさせる。
- エ 平成 27 年度学校経営推進費事業において支援が決定された「英語多読・多聴ステーション」を核にし、生徒の英語力の向上等を図る。
- (2) 「充実した授業」をめざし、授業力向上に取り組む。
- ア 学習支援室を主体として、教員の授業見学や研究授業の活性化など、教科横断的な授業力向上への取り組みを充実させる。
- イ 「学校教育自己診断」や「生徒の授業アンケート」等を利用して授業改善に努め、生徒の授業充実度を向上させる。
- ウ 視聴覚教材メニューの充実を図る。
- \* 「授業アンケート」の生徒の充実度（質問項目 8・9 「興味・関心」「知識・技能」）について、1 回目より 2 回目を 0.02 ポイントアップさせる。
- (3) 生徒の進路希望を実現させる。
- ア 授業の充実の他、講習・ガイダンス等の充実をはかるとともに、入試結果の実績維持・伸長をめざす。
- \* 学力生活実態調査（B ゾーン以上の成績を有する生徒が、学年の過半数）及び、英語学力調査（スコア 430 点）
- \* 中堅・難関大学現役合格者数及びセンター試験出願者数が H29 年度 220 名及び 80 名以上、H30 年度 230 名及び 90 名以上、H31 年度 240 名及び 100 名以上。

## 2 志学・総合学習の推進

- (1) 志を持ったよき社会人として、自立と創造する力を養うための、志学・総合学習実施計画を推進する。
- ア 企画立案する志学総合推進チーム内の企画グループと実践グループが、志学・総合学習を推進していく。
- イ 志学総合推進チームは、分掌、委員会、教科、教員個人の実践やスキルの中から多くの効果的な情報を得て、より充実した取り組みになるよう企画立案・実践していく。
- ウ 平成 25 年度改訂の志学テキストの内容の充実・改善に努め、活用を促進していく。
- エ 人権（基礎）教育、ボランティア活動、キャリア教育、ライフプラン作成等、各分野での実践を検証し、志学との相乗効果を図る。
- (2) 語学研修等国際交流活動の充実を図る。
- ア 国際交流委員会の活性化と語学研修等の充実を図る。
- イ 大阪観光局等と連携し、海外の高校生との交流を通じて国際理解を深める。
- (3) 読書活動の推進を図る。
- ア 図書館を中心に読書活動の推進を図る。

## 3 府民に信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 生徒支援体制の確立
- ア 支援相談委員会が、「高校生活支援カード」を活用して、課題を抱える生徒や自己に責任がない理由で学校生活を送ることが困難な生徒、障がいがある生徒等に対して、実態の把握と個別の支援策を考えるとともに、「個別の支援計画」を作成し支援していく。
- イ 支援の必要な生徒に対する支援方法等の研修を行い、共通理解の促進と実際の支援の充実を図る。
- ウ 自治会活動に対する指導の充実を図り、文化祭、体育大会等の諸行事をさらに活性化させ、充実感を育むとともに、地域や保護者との交流を深め、互いの信頼関係を築く。
- エ 生徒のマナー意識、規範意識等の向上をめざし、あいさつのできる生徒、遅刻数のさらなる減少、自転車事故等の防止をめざす。そのため、生徒自治会と連携して、あいさつ運動・安全指導・マナー向上運動等を実施する。
- オ 人権教育を中心に、命の大切さを学び、自他を大切にす基礎的な人権意識の醸成を図る。
- カ 夢を育み目標をかなえるライフプランを作成させることで、将来に向けての意欲を引き出し、生徒それぞれの潜在能力を開花させていく。
- \* 遅刻者数の前年度比からの減少をめざす。
- (2) 学校運営体制の強化
- ア 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。
- イ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る。
- (3) 開かれた学校づくり
- ア より開かれた学校をめざし、積極的な情報提供や広報活動を展開していく。
- イ 創立 100 周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等オール阿倍野態勢を推進していく。また、さらなる進化発展（「めざす学校像・生徒像」の実現と、地域・関係者からの高い評価）をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>「学校が楽しい」について肯定値は保護者 80%超、生徒も 80%前後を維持している。また「入学して（させて）よかった」という生徒は 83%、保護者は 92%に達しており、この状況を今後も充実発展させていきたい。</p> <p>【学習指導】教員の肯定値「指導方法の改善・工夫」が 86%と横這いであるが、「思考力・問題解決の指導」が 56%と昨年に比べて 5 ポイント回復。「ICT の活用」は 50%と昨年に比べて 15 ポイント下降したが、一昨年以前に比し利用率は改善傾向にある。また、生徒の肯定値「放課後等の補習」83%（5 ポイント上昇）、「質問しやすい」が 77%（3 ポイント上昇）と、この 4 年間でポイントが向上しつつある。生徒の学習意欲の向上に加えて、阿倍高塾や勉強合宿等の充実を図り、職員室横の廊下に照明や椅子を設置する等環境整備に努めてきた成果と言えよう。「ICT の活用」も 77%と、昨年に比べて 3 ポイント下降したが、一昨年以前より改善傾向は持続しており、教員と生徒が共によりよい授業をめざして少しずつ努力した結果が表れつつある。</p> <p>ただ、教員の「授業の改善・工夫」に関する肯定値が約 86%なのに対して、生徒の「分かる・質問しやすい」肯定値が 75%前後で留まっており、両者の意識の差は継続課題である。</p> <p>【生徒指導】「基本的生活習慣の確立」についての肯定値は教員 84%、生徒 85%、「生徒指導方針に理解」について保護者の肯定値は 87%、「保護者との連携」について教職員の肯定値 91%と一様に高く、遅刻指導をはじめ、服装やマナー指導については確立されており、学習環境を整え、社会性を身に付けるという共通理解も得られている。また、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」を重視する教員は 65%（7 ポイント上昇）と改善、「教育相談体制」が整備されてきたと捉える教員は 81%（1 ポイント上昇）、生徒の肯定値も「悩みに親身になって応じてくれる」68%（3 ポイント上昇）「気軽に相談できる」52%（2 ポイント上昇）と徐々に改善しつつあり、教育相談室の整備やカウンセラーの交替、支援相談体制の充実等が一定の成果を上げつつある。引き続き支援相談委員会の定例化、専門資格を有する教員による同委員会の運営などに取り組む必要がある。</p> <p>進路指導については「進路実現に向けて適切な情報提供がある」の生徒の肯定値が 86%（4 ポイント上昇）、保護者が 84%（4 ポイント上昇）と高い評価を維持している。また「きめ細かい指導」については、教員の肯定値が 86%と高水準を維持し、生徒の肯定値も 70%と改善傾向にある。双方の意識の差を埋めるべく、引き続き個に応じた進路指導の充実が求められる。</p> <p>【学校運営等】「適性・能力に応じた校内人事や分担がなされ、意欲的に取り組める」「各種会議が意思疎通・意見交換の場として有効に機能している」についての教員の肯定値が 6、7 ポイント下降。引き続き、報告・連絡・相談を心がけ、各会議での情報の密な共有に加えて、各会議からのボトムアップ機能の向上を図る必要がある。また、「経験の少ない教職員の育成」について肯定値が 47%と近年低下傾向にある。ミドル層による対象教員へのフォローアップや広報活動、国際交流等への参画による幅広い育成体制の構築を図りたい。施設・設備面に関しては昨年度に比べて、「破損物の修理」について生徒の肯定値が 52%でほぼ横這い、「学習環境面の満足」について保護者の肯定値が 58%で 4 ポイント下降し、トイレをはじめ施設面への不満が高まっていることが明らかになった。「学校のホームページ閲覧」については肯定値 35%と近年微増傾向にあるが、依然として低水準。その中で 2 年生の保護者のみ 41%とやや改善したのは、学年ブログの導入によるところが大きい。抜本的なリニューアルも含め検討したい。</p>	<p>第 1 回(7/6)</p> <p>進路実績の向上及び朝学での学力向上を評価する。学年で目標を立てて、相互に生徒の意識を高める工夫を期待する。</p> <p>また、基本的な国語力を育成するために、読書を通して読む力や挨拶がしっかりできる阿倍野高校生として、さらなる社会性を身につけてほしい。</p> <p>第 2 回(11/16)</p> <p>生徒によるクラブ活動報告を HP で行っているのは評価する。思考力や表現力を養う授業改革を進めて次のステージに上がってほしい。</p> <p>第 3 回(2/14)</p> <p>生徒の主体性を引き出し思考力、表現力等をより一層向上させる新たな取組みを修学旅行も含め工夫して行ってほしい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 学力向上と進路実現	(1) 学力向上・進路実現に向けた取り組みの強化 ア 授業改善を進め、学力向上に向けた取り組みの強化 イ 新教育課程の取り組みの充実	ア a 学習支援室と各教科が連携して、授業アンケート(年2回実施)、学校教育自己診断、相互授業見学等に取り組み、結果を総合的に分析し、課題を共有し、更なる授業改善を進める。 b ペップトーク、コーチング、ファシリテーション等について校内研修を通じて理解を深め、生徒の主体的な深い学びを引き出すスキルの向上を図る。 イ a 「学習基礎」(朝学)については、モジュール化の活用による「みる」「きく」等の感覚機能を活かした取組を計画し、実施する。 b 「学習・進学PJ会議」を中心に、学習面、進路面での諸課題に迅速かつきめ細かに対応する。 c 英語科授業での多読・多聴活動をはじめ、「土曜学習会」、意欲や学力の高い生徒への講習や数学等苦手意識のある生徒への補習など学習支援への取組を充実する。 ウ a 新教育課程における進路目標に基づいて、進路指導の方針を確立する。その中で「進学講習」「学習キャンペーン」等を推進し、質的・量的な充実を図る。 b 進路指導部と連携し阿倍高塾の授業内容の充実と映像教材の指導充実を図る。 c 高校入学時の学力の維持・向上に努めることを目標として、学力生活実態調査、英語学力調査等を用い、進路実現を図る。 エ 学習ガイダンス、進路ガイダンス機能を充実させる。(選択科目説明会・進路別説明会・学問別説明会等の充実) a 年度当初に保護者の進路情報ニーズをきめ細かく把握する。 b 3年次の早期にセンター試験受験の意義や効果的な受験対策について情報提供を行う。	ア a 授業アンケート、学校教育自己診断による経年比較生徒満足度、「わかりやすい授業・教え方に工夫」70%以上をめざす。 b 経験の少ない教員をはじめ、各教科や校内で授業研究等年1回以上の実施。 イ a 一斉映像配信英語教材の研究と作成。生徒アンケートによる取り組み意識の肯定率70%以上をめざす。 c 「土曜学習会」参加者数平均150名 ウ a 平日の家庭学習時間60分以上の生徒の総数が学年総数の過半数を占めること。 b 阿倍高塾の生徒満足度60%の維持。 c 学力生活実態調査等の成績の経年比較とBゾーン以上の成績を有する生徒の総数が学年総数の過半数を占めること ・英語学力調査トータルスコア430。 ・中堅・難関大学現役合格者数の220名達成 エ 各説明会等での生徒および保護者アンケートの実施による検証を経て、充実・改善を進める。 ・アンケート「進路指導・情報提供に関する肯定値」の維持向上。 ・センター試験出願者数80名以上	ア a 「わかりやすい授業・教え方に工夫」73%(○) b 相互授業見学は一人当たり2回以上の見学を実施(○)ペップトーク校内研修実施(○) イ a 生徒の取組意識77%(◎) b 現行の阿倍高塾の受講生への意識付と保護者連携継続、勉強合宿の充実を実現(◎) c 参加者平均155名。昨年度値を6名凌駕し目標超(◎)各講習については3学年のクラス数(3学年担当教員数)の減少もあり、前年度より講習講座数・申込生徒数共に減少。最終的な受講人数は実数把握できていない。(△) ウ a 3年生においては大きく上回るものの、低学年時では達成できていない。(△) b 1年次の満足度70%と10p上昇(◎) c 学力生活実態調査においては、英・国は全ての学年で目標を達成したが、2・3年の数学がそれぞれ38.4%、44.5%と未達成であった。(△) 英語学力調査409.2(3年)と目標を達成できず。(△)。中堅・難関大学現役合格者数については148名(△) エ 生徒アンケート「進路に関する情報提供」は4p上昇(◎)保護者アンケートでも4p上昇(◎)センター試験出願者数は102名超(◎)
	(2) 志学・総合学習の推進	ア a 志学総合委員会で、学年と連携して新教育課程の総合学習および志学の指導内容を充実する。 b 総合学習・キャリア教育の取り組みの推進および志学テキストの活用の充実を進める。 イ a これまでの取組の検証を踏まえて、引き続き、芸術鑑賞、人権講演会、美化活動、挨拶キャンペーン、志学の川柳募集などを企画し、その充実を図る。 b 「花いっぱい学校・日本一きれいな学校」を目標に、校内や周辺地域の美化活動をより推進する。	ア a 系統立てたキャリア学習を計画する。 b 教員アンケート肯定値「キャリア教育」55%の維持 イ a アンケート「豊かな心や生き方について考える機会がある」1年肯定値70%の維持 b 学校協議会委員やPTA実行委員による点検評価を受け、肯定値7割以上をめざす。	ア b キャリア教育についての教員アンケートは56%と1p上昇(○) イ a 取組は全て推進(○)アンケートの1年肯定値は74%と維持(○) b 授業環境の美化については生徒の肯定値66p(△)
	(3) 読書活動の推進	ア 国際交流委員会の活性化を図り、語学研修等の充実を具体化する。	ア 委員会の定期的開催年6回(28年度4回) ・NZ語学研修の授業内容の改善(学校内授業の割合7割(28年度6割))	ア 委員会の定期開催(6回)に加え生徒の実行委員会を組織し外国の高校生との交流について企画運営するなど、組織の活性化が進んだ(◎)
(3) 府民に信頼される魅力ある学校づくり	(1) 安全で安心な学校づくりと意欲ある学校生活 ア 支援相談委員会の充実 イ 生徒支援室関連業務の充実	ア a 支援相談委員会を充実させ、必要に応じてケース会議等を開催し、生徒支援の充実を図り、集団生活の充足感をめざす。SCのカウンセリングマインドに関する研修を1回以上計画し、全体で共有しスキルを向上する。 「高校生活支援カード」を面談などで活用。 イ a 自治会を中心とした生徒会活動の支援体制の強化と、生徒部全体で各行事のより一層の進化発展をめざす。 b 何度も遅刻を繰り返す生徒に対する指導を徹底する。 c 安全な通学、特に自転車通学の事故防止(標語&啓発、推進月間・推進週間の設置)と自治会としての啓発活動の推進。 d 風紀委員の役割の充実(挨拶・自転車駐輪指導等) e 生徒の健康管理と健康の意識を高める。 f 生徒自治会とともに学校食堂の魅力の向上を図る。 ウ a 年3回の安全点検を実施し、危険を排除する。 b 清掃が行き届く分担場所の工夫と清掃の確実な実施。 c 生徒自治会を主体にクリーンキャンペーンを実施し、校内美化活動をとおして愛校心と仲間意識を育む。 エ 家庭科授業選択生徒や部活動参加生徒、有志生徒中心に地域の活性化や福祉活動に取り組みることにより他者理解を深め、併せて自己有用感を育む。	ア 自己診断の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値70%への向上をめざす。 イ a 各行事で生徒アンケートを実施 生徒満足度80%の維持(体育大会、文化祭)。 b 遅刻者数→前年からの減少 c 自転車通学生徒の交通法規遵守、マナーの向上→年間事故件数0をめざす。 d 自転車駐輪に関する苦情0件をめざす。 e 保健HRの実施を行い、年間1回以上危険薬物についての知識を高める。 f 食堂利用生徒の満足度をアンケートにより把握し肯定値60%以上をめざす。 ウ a 安全点検を実施し、アンケートの回収率を高め速やかに改善されるよう関係部署に連絡する。保護者からの指摘件数0件をめざす。 b 学校教育自己診断「清掃がいきとどいている」の肯定値60%への向上 エ 他校種や地域の方との交流回数のべ10回以上をめざす。	ア 身体上の問題により、支援が必要な生徒の支援や家庭事情により就学の問題がある生徒への対応、親子ともに心理的に不安定となった生徒の対応等に当たった。評価指標に対する肯定値は68%と昨年度よりさらに3p上昇(○) イ a H29年度 生徒満足度82%で前年度並み(体育大会、文化祭)(○) b 遅刻数→前年比増(△) c 自転車事故については2件生じたものの駐輪に係る苦情は0件(△) e 全学年の生徒に対して薬物乱用防止のHRを実施し、知識が深まった(◎) f 昨年度に比して、メニューや環境等改善したと評価する生徒が6割超(○) ウ a 安全点検の結果に応じ、速やかに改善した。安全に係る指摘は保護者から受けていない。(○) b 「清掃がいきとどいている」の肯定値66%(◎) エ 国際交流や子ども食堂の運営について地域の篤志家と連携。複数の部活動において支援学校や小中学校との連携に取り組んでいる。のべ回数10数回以上(◎)
	(2) 学校運営体制の強化 ア 組織力の強化 イ 教員の育成	ア 教職員全体のチーム意識を高めるなど組織力の強化を図る。 イ 若手養成講座の開催	ア 教員アンケート「分掌・学年の連携・組織的に機能している」60%への向上 イ アンケート「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」60%への向上	ア 「分掌・学年の連携・組織的に機能している」56%(○) イ 「初任者等、全体で育成」47%(△)OJTによる計画的育成が課題。
	(3) より積極的な情報提供と広報活動の展開	ア ホームページの充実を図る イ 広報活動の展開を図る 中学校訪問の戦略化を図る。	ア 学校教育自己診断(保護者)「学校のホームページをよく見る」の肯定値35%の維持。 イ 教員による中学校訪問数(28年度85校)を精査し近隣中学校を中心に情報・資料等を用い、より丁寧な訪問を計画し実行する	ア 「HPをよく見る」の肯定値35%(○) イ 当初の計画通り70校実施できた(○)